

富士山南陵の森フォレストセイバープロジェクト

大規模工業団地の緑地計画に、協働による森づくり活動を取り入れた先進的な事例を紹介します。



地域NPO(NPO法人ホールアース研究所、NPO法人森林インストラクターしずおか等)

所在地：富士宮市、静岡市葵区他
ホームページアドレス
<https://fuji-nanryo.com/>
TEL 0544-66-0790
事業の全体推進

NPO

常葉大学社会環境学部 (旧：富士常葉大学社会環境学部)

所在地：静岡市駿河区
ホームページアドレス
<https://www.tokoha-u.ac.jp/>
専門的な知見に基づく指導・助言

大学

富士山南陵工業団地の 進出企業（(株)佐藤工機、 富士宮通運(株)等12社）

所在地：富士宮市
ホームページアドレス
<https://fuji-nanryo.com/>
活動資金の拠出、森づくり活動の実践

企業

企業が活動資金を拠出し、一般社団法人富士山南陵の森フォレストセイバーを設立。地域NPOや大学と協働することで専門的な知見を活かしながら、企業の従業員やその家族、地域住民が森づくり活動を行っています。

「自然との共生」を目指した工業団地

富士山南陵工業団地は、富士山南麓の標高400m前後に位置する、放置され荒れていた草地や雑木林を造成した48haの工業団地です。「自然との共生」のコンセプトのもとに、極力自然を残すとともに、地域の核となる自然を創出するよう設計され、2008年からの造成工事期間中には、地元小学生を招いた残すべき樹木調査や在来種キンランの移植、市民1,900人の参加による植樹祭等を実施。2010年に完成し工業団地の供用が開始されました。

工業団地の進出企業が緑地を保全・活用するために地域NPOや大学等と連携しながら森づくり活動に取り組む仕組みづくりを計画しました。

ハード面だけでなくソフト面を大切に

2010年、森づくり活動の実行組織として、企業、地域NPO、常葉大学等が一般社団法人富士山南陵の森フォレストセイバーを設立しました。工業団地進出企業12社は活動資金の拠出と従業員・家族の活動への参加、富士常葉大学（現：常葉大学）は専門的な知見に基づく企画・提案、地域NPO（NPO法人ホールアース研究所、NPO法人森林インストラクターしずおか）が森づくりプログラムの実施を担っています。

活動当初は普及啓発を目的とし、進出企業の従業員を対象に森を楽しむプログラムや地域住民対象に原っぱの生き物観察プログラム等を年数回実施しました。

2014年頃からは、森の担い手育成等を目的に、進出企業の従業員対象に下草刈りや巣箱づくり、絶滅危惧種キンラン保護活動等、また地域住民対象に下草刈りと草木染め・クラフト教室等、自ら森を育てることを実感できるプログラムを企画し、リピーターの参加も見られるようになってきました。

2018年頃からは、主体的な森づくり活動の機運醸成を目的に、上記活動に加えて進出企業対象に森づくりセミナーを開催し、企業の森づくり活動の先進事例やSDGsと南陵の森づくりの関係・効果等を学んでいます。

森づくり事業の成果

10年以上の森づくり活動によって、保全および新たに創出した森林は順調に生育しています。特に雑木林と共生関係にある絶滅危惧種キンランの生息域の拡大や、絶滅危惧種エビネの生育の確認等、富士山南麓にふさわしい森になりつつあります。

また、進出企業が森づくり活動に積極的に参加するようになり、今後も責任をもって継続的に森づくり活動に取り組む機運が醸成されてきています。

この取組は高く評価され、2010年度「生物多様性に貢献する企業のみどり100選」選定、2019年度「第20回中部の未来創造大賞」優秀賞、2020年度「土木学会賞」環境賞、2020年度「エンジニアリング功労者賞」、2021年度「第7回富士宮市景観賞」最優秀賞を受賞しています。

Point

工業団地の進出企業が、森づくり活動の資金を拠出すると共に、大学や地域NPOとの協働による森づくり活動の担い手になり、10年以上にわたる取り組みによって多様性のある森がつけられていることがこの協働のポイントです。

これからの展望

雑木林のサイクルは15年程度といわれています。2サイクル目以降は、工業団地進出企業が主体的に森づくりに取り組んでいけるように、今後も協働による森づくりを進めていきます。

